

令和6年度 第4回  
大阪府・大阪市経済動向報告会

# 最近の大阪経済の動向

---

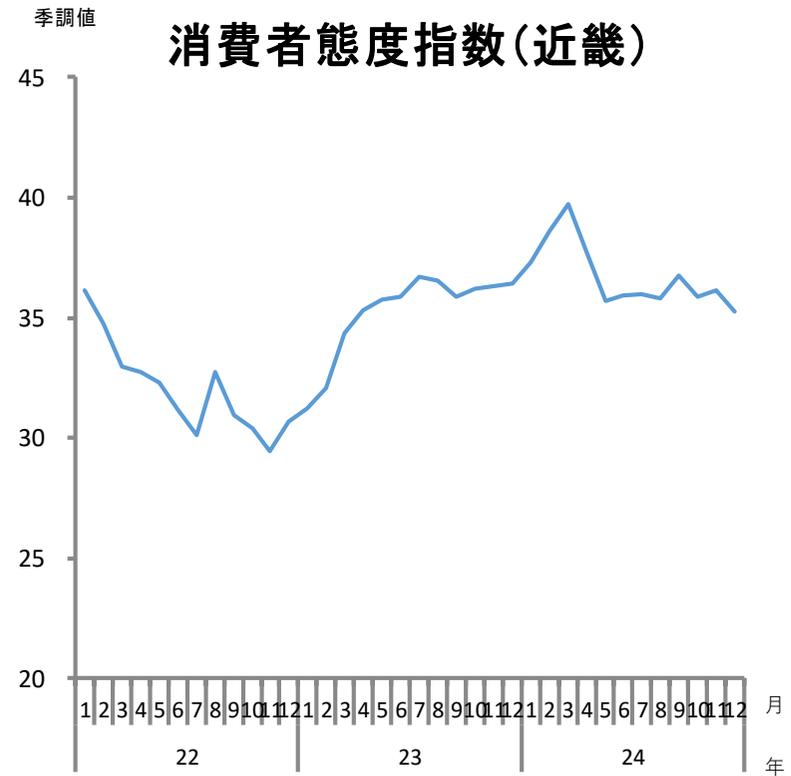
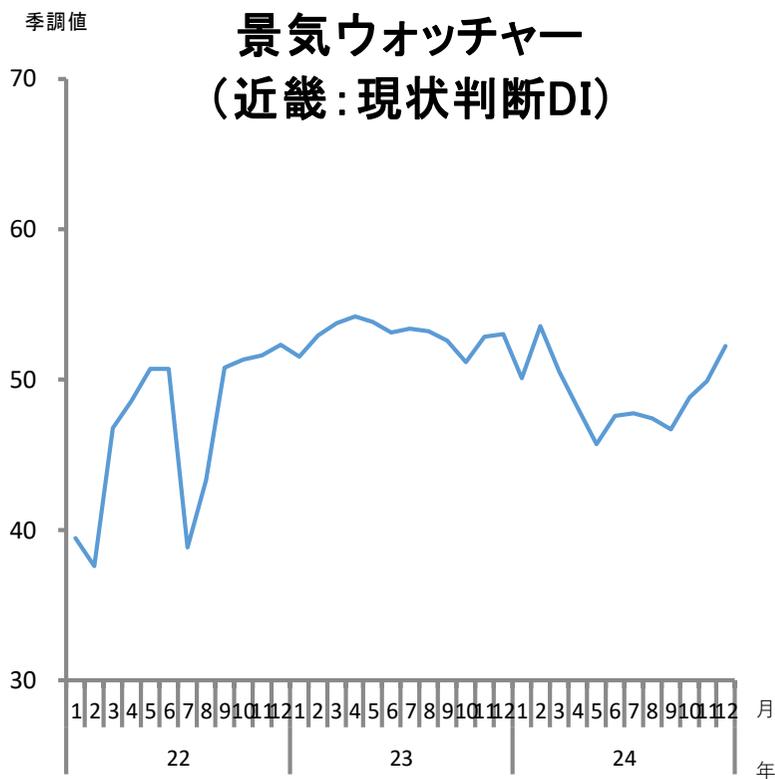
2025年2月13日(木)  
大阪府商工労働部 商工労働総務課  
大阪産業経済リサーチセンター  
佐野 浩

# 今回の内容

- はじめに  
24年中の経済の動きや今回の注目点など
- 個別指標の動き  
需要面（個人消費、投資、輸出など）  
供給面（生産、企業動向、雇用など）  
大阪府景気観測調査（24年10～12月期）の結果
- 今後の見通しとまとめ

# はじめに(1): マインド指標

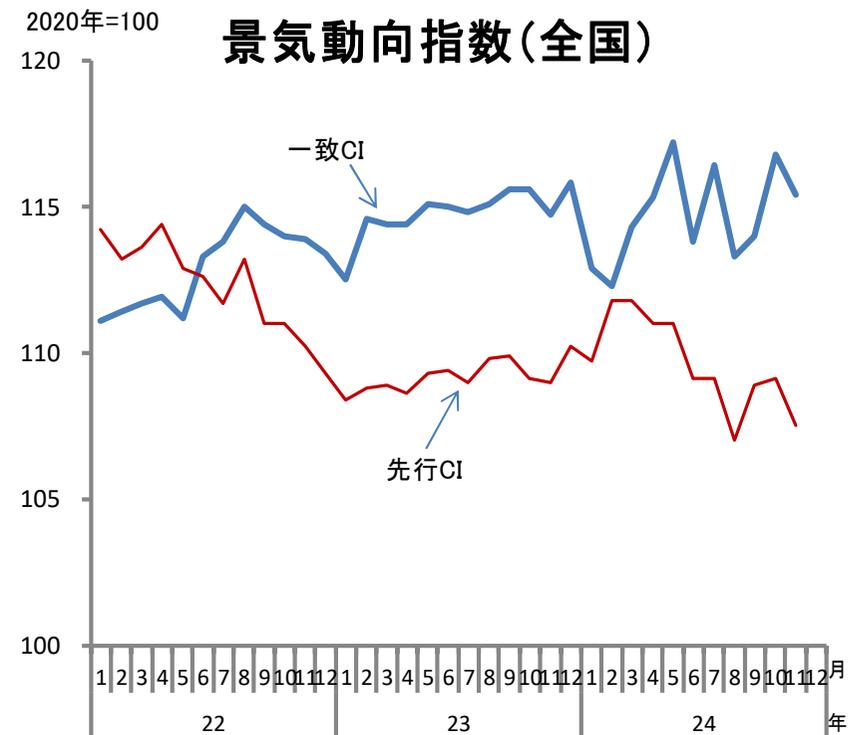
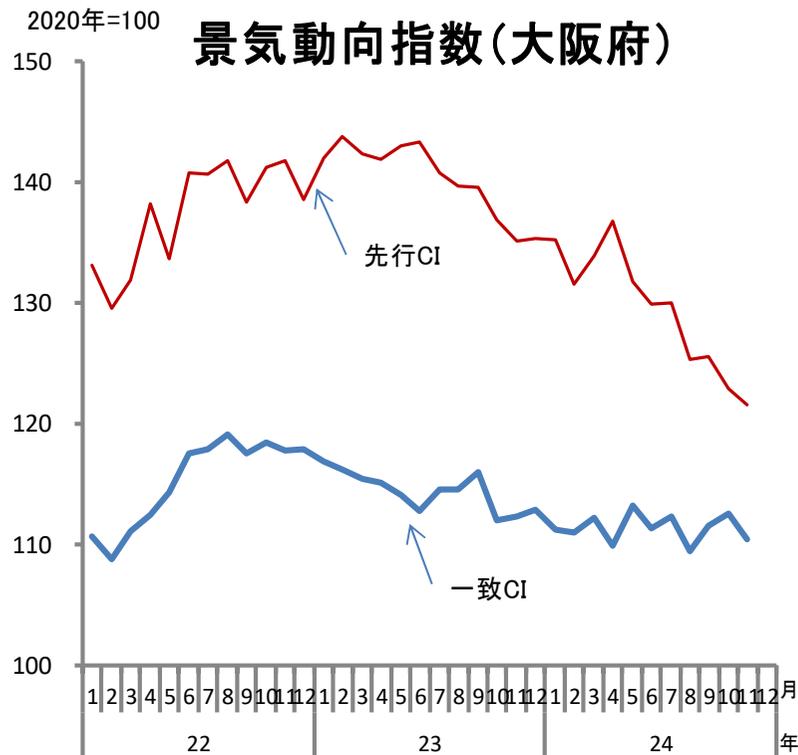
- ・マインド指標の推移では、  
24年は上昇・低下はあるものの、23年と水準はあまり変わっていない。



(出所)内閣府

## はじめに(2): 景気動向指数

- 景気動向指数では、  
大阪府の一致CIは、24年中は一進一退で、ほぼ横ばい。  
大阪府の先行CIは、23年後半から低下基調が続く。

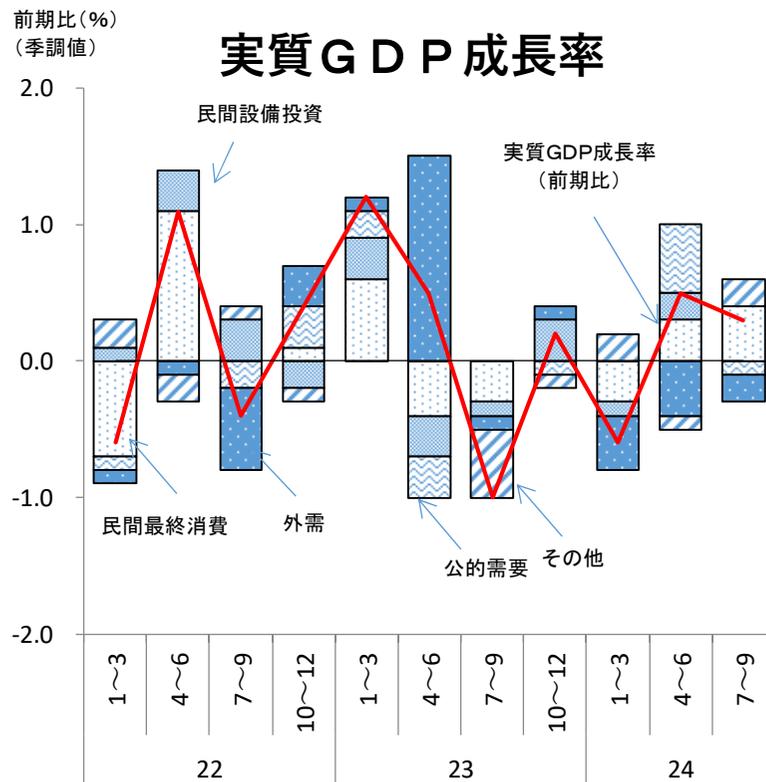


(出所)大阪産業経済リサーチセンター、内閣府

- ※一致CIは、景気に連動して動くと考えられる、いくつかの指標を合成して数値を算出したもの。  
計算の都合上、複数の指標ではなく一指標のみの大きな変化でも、CIが大きく変動することに注意。
- ※大阪府と全国とは、採用系列の違いなどにより、水準などの単純な比較はできない。

# はじめに(3): 実質GDP成長率

- ・全国の実質GDP成長率では、24年7~9月期は2期連続のプラス。  
7~9月期は、「内需」はプラス寄与だが、「外需」はマイナス寄与。



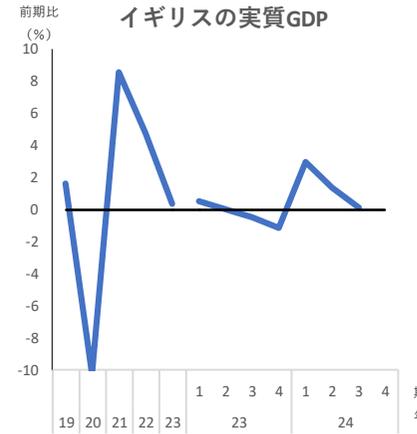
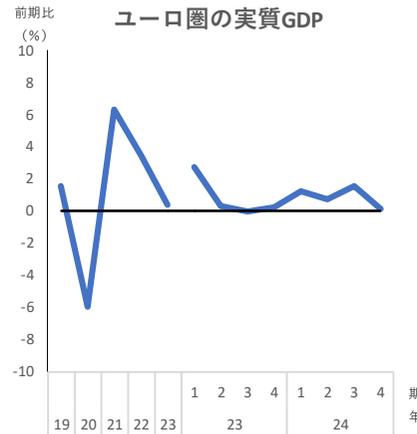
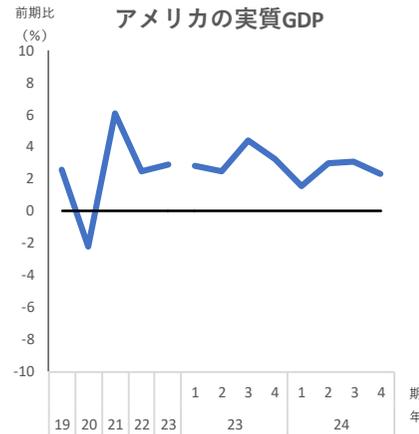
実質国内総生産の寄与度(前期比)

	24.1~3	4~6	7~9
国内総生産	▲0.6	0.5	0.3
民間最終消費	▲0.3	0.3	0.4
民間設備投資	▲0.1	0.2	0
公的需要	0	0.5	▲0.1
外需	▲0.4	▲0.4	▲0.2
その他	0.2	-0.1	0.2

(出所)内閣府

# はじめに(4): 世界経済の動向

- 世界経済の動向では、24年の成長率は前年とさほど変わらない。  
地域別に見ると、ユーロ圏の停滞が目立つ。



(出所) 各国統計

※四半期GDPは前期比年率換算値。  
ただし、中国は「前年同期比」と、他とは異なる。

## はじめに(5): 今回の注目点

### 【これからお話しする内容】

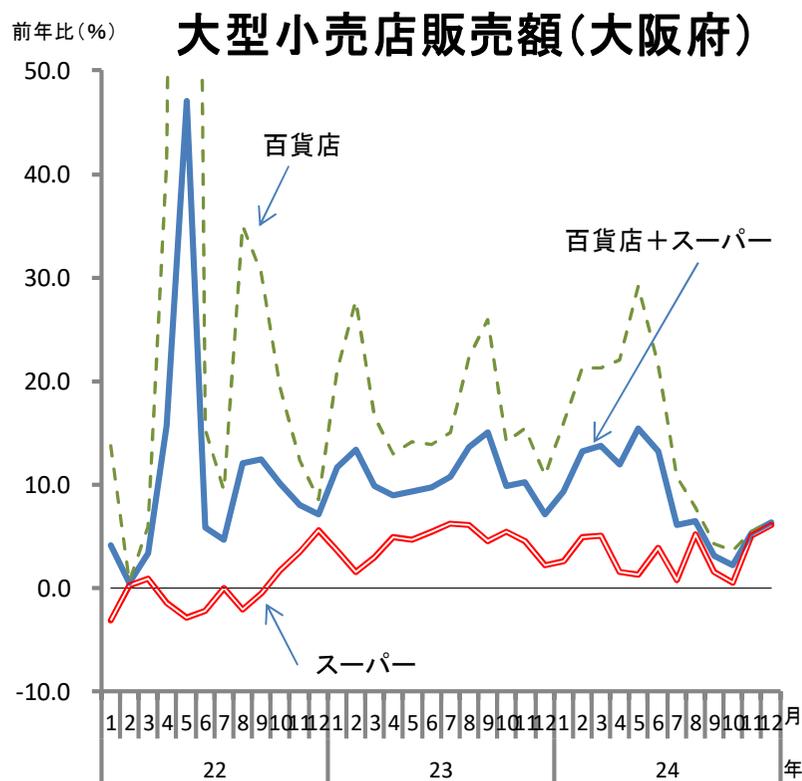
- 24年の経済動向では、コロナ禍からの回復が一段落し、23年と比較して、ほぼ横ばいの状況。  
(ただし、マインドと経済指標は一致していたか?)
- その要因を考察するにあたって、「消費」、「生産」、「輸出」といった項目の動きに注目
- 最近の経済動向における特徴的な動き  
「インバウンド」、「雇用」、「賃金」など



以下では、個別指標の動きを見ながら、上記のことを考えていきたい。

# 需要面の動き: 個人消費(1)

- 大阪府の大型小売販売額(12月)は、39ヶ月連続の上昇。  
百貨店ではインバウンド向けだけでなく、国内向けも寄与。  
スーパーでは節約志向の高まりなどにより持ち直しが続く。



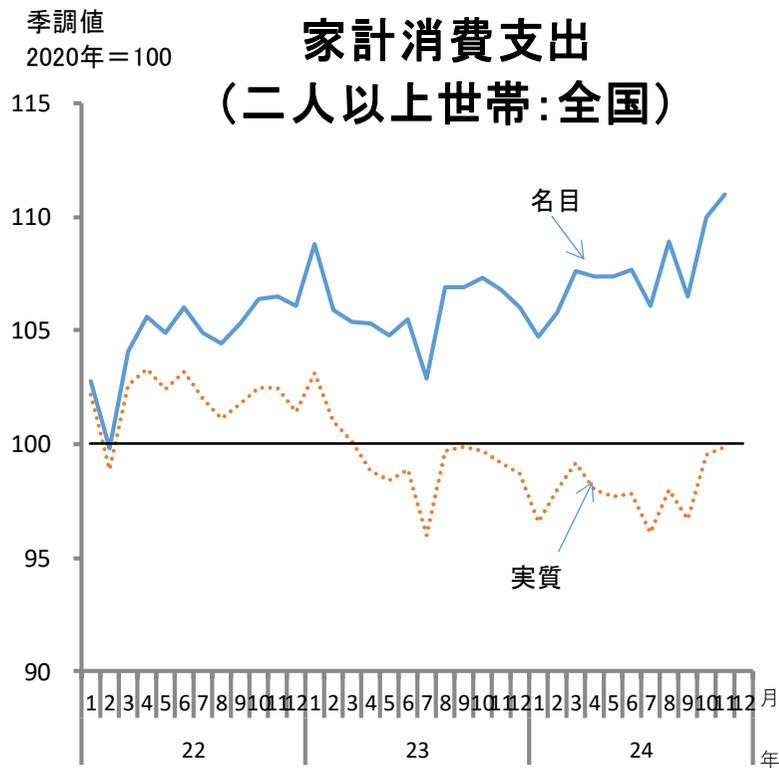
(出所) 経済産業省



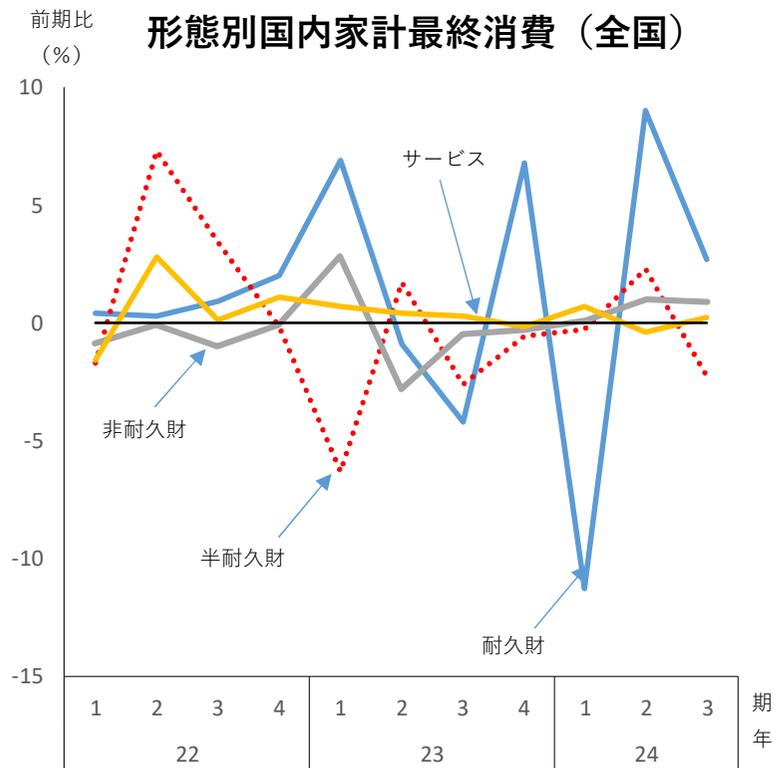
(出所) 全国百貨店協会、日銀大阪より試算

# 需要面の動き: 個人消費(2)

- ・家計消費支出(全国)では、24年中は、名目では増加しているものの、実質では伸び悩み。
- ・消費の内訳では、耐久財・半耐久財が大きく変動。



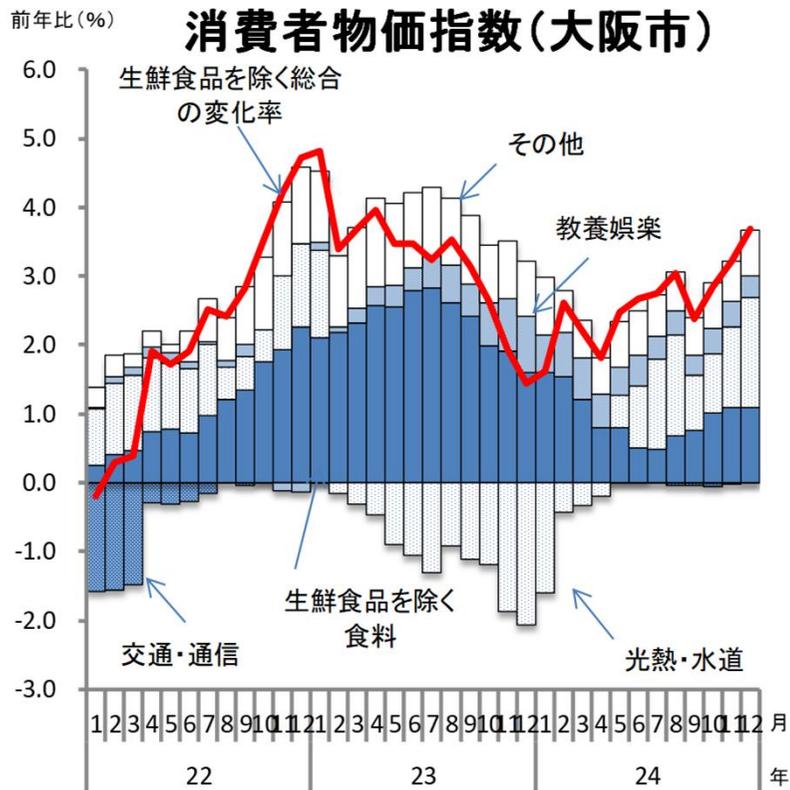
(出所)総務省統計局



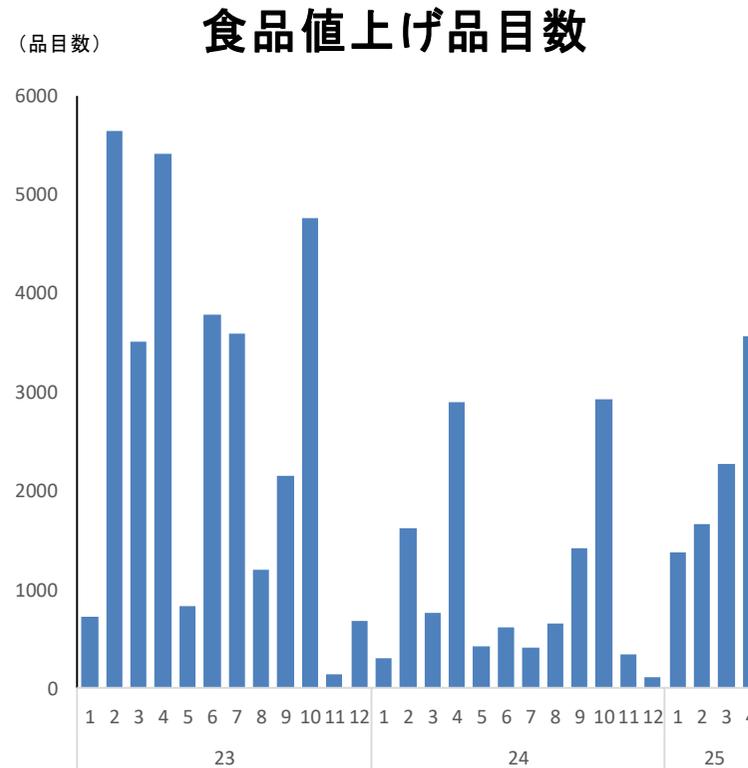
(出所)内閣府

# 需要面の動き: 個人消費(3)

- ・物価は、上昇基調が続いており、最近はその要因も大きく変化。  
足元では、特に「光熱・水道」「食料」の値上がりが目立つ
- ・食料品の値上がりは、今後も続くという予想。



(出所)大阪府統計課

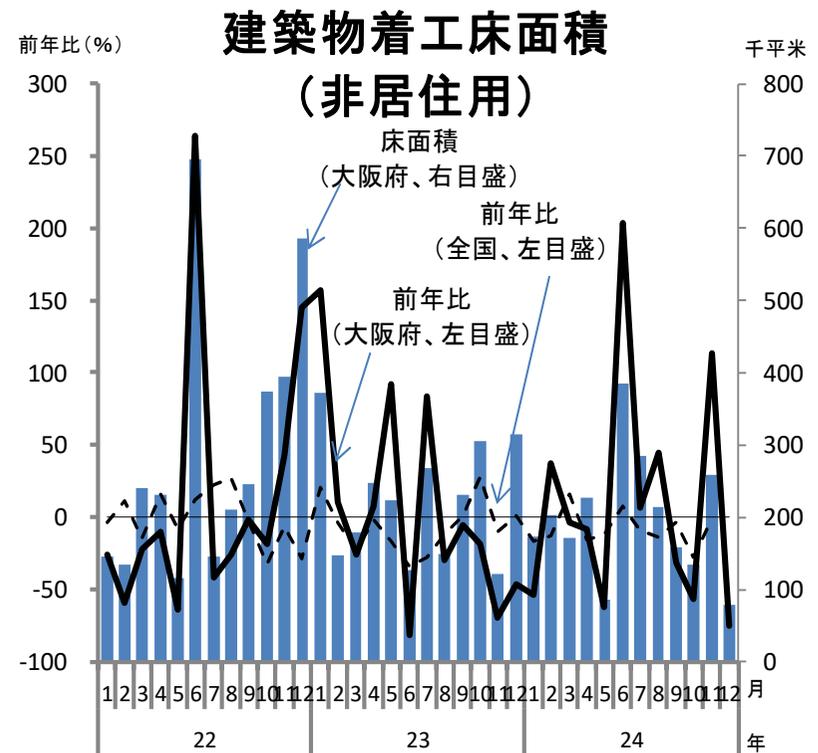
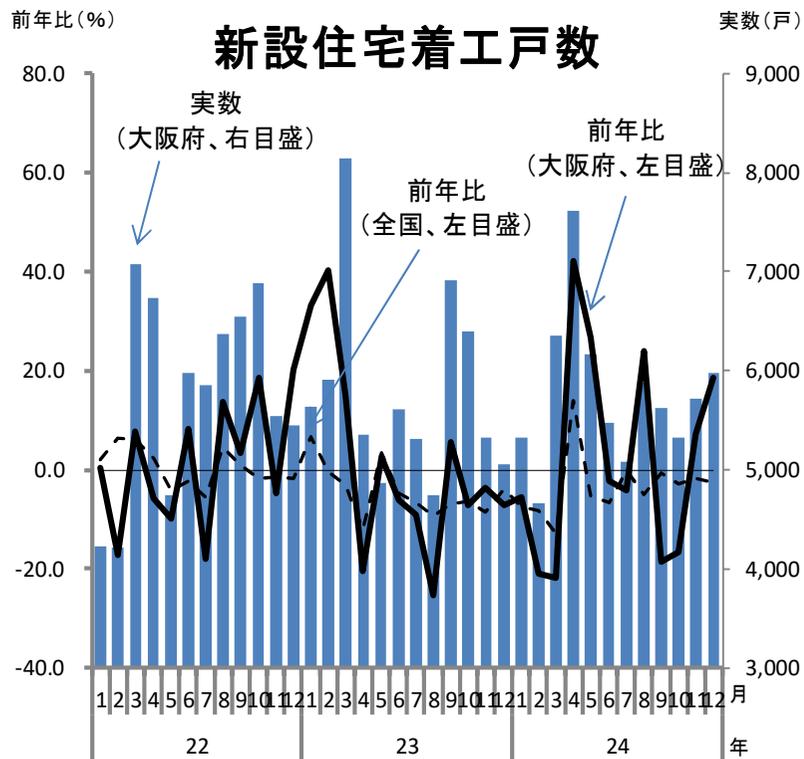


(出所)帝国データバンク

※主に全国展開を行う上場・非上場の主要195社の価格改定計画。  
品目数は、再値上げなど重複を含む。

# 需要面の動き：住宅着工・建築着工

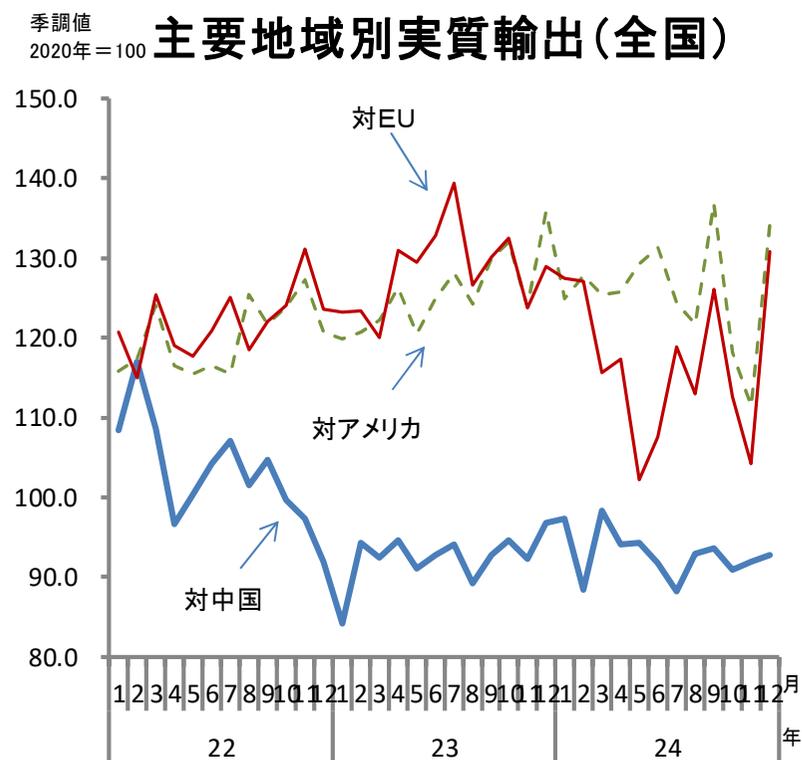
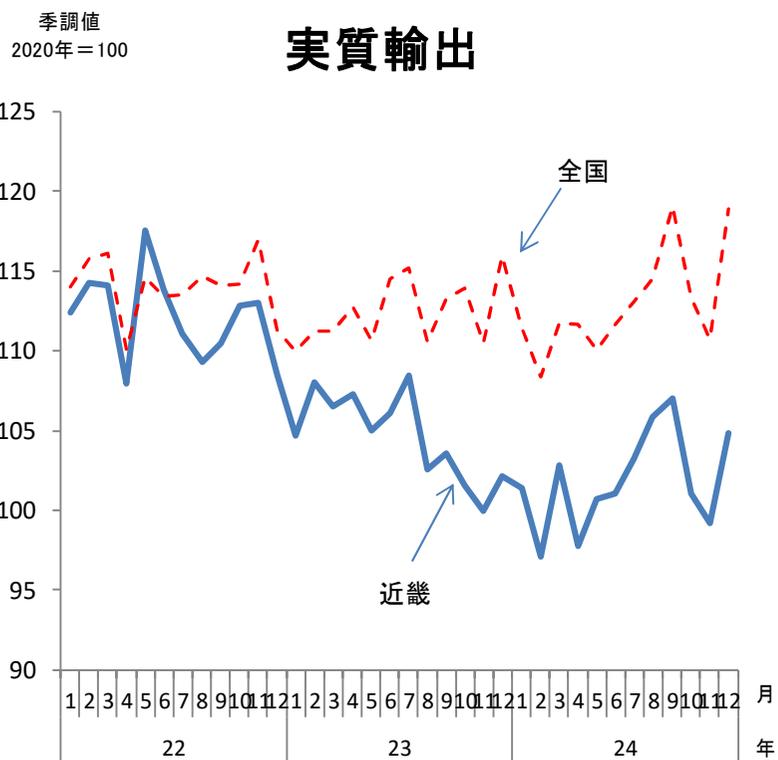
- ・新設住宅着工戸数(12月)は、大阪府は2ヶ月連続の増加。
- ・建築物着工床面積(12月)は、大阪府は2ヶ月ぶりの減少。



(出所)国土交通省

# 需要面の動き：輸出(1)

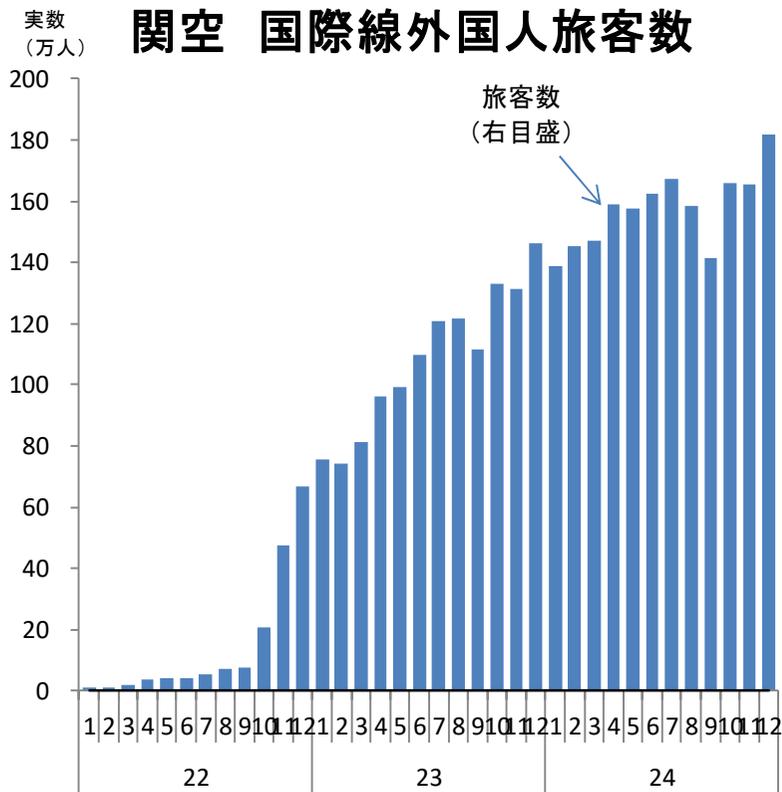
- ・実質輸出では、全国・近畿ともに、24年前半は伸び悩んでいたものの、年後半には増加基調へ。
- ・国別(全国)では、「アメリカ向け」「EU向け」が変動し、「中国向け」では横ばいが続く。



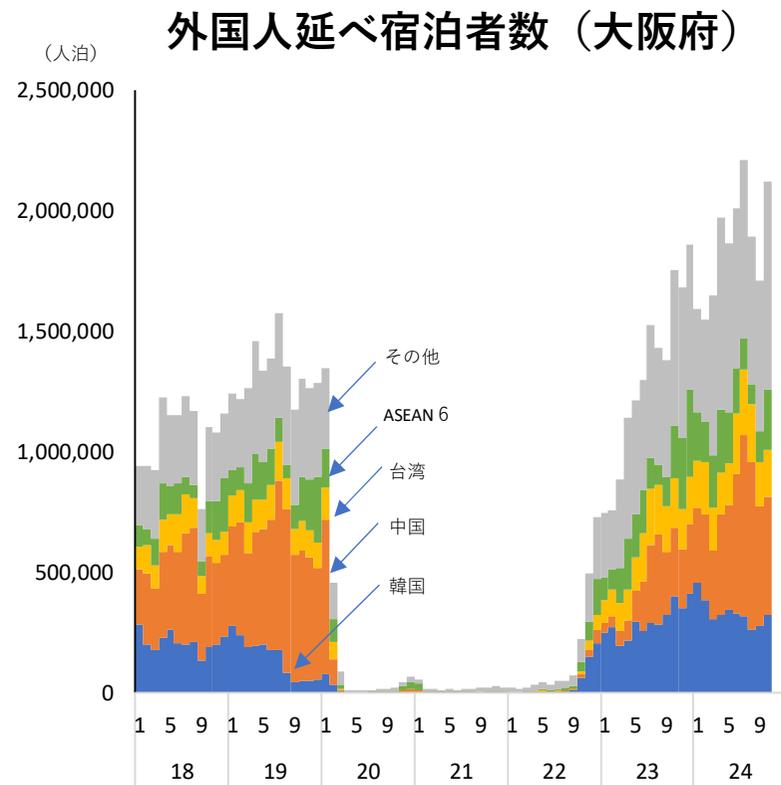
(出所) 日本銀行、日本銀行大阪支店  
※季節調整値

# 需要面の動き: 輸出(2)

- ・関西空港の国際線外国人旅客数は、24年中も上昇が続き、24年12月は過去最高を更新。
- ・大阪府への外国人旅客は、最近では変化がみられる。



(出所) 関西エアポート

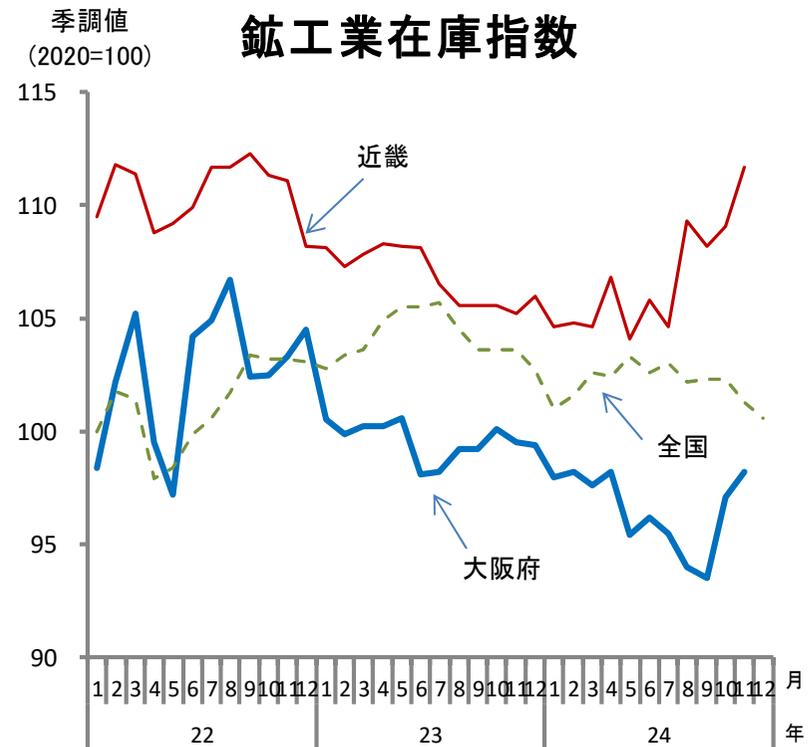
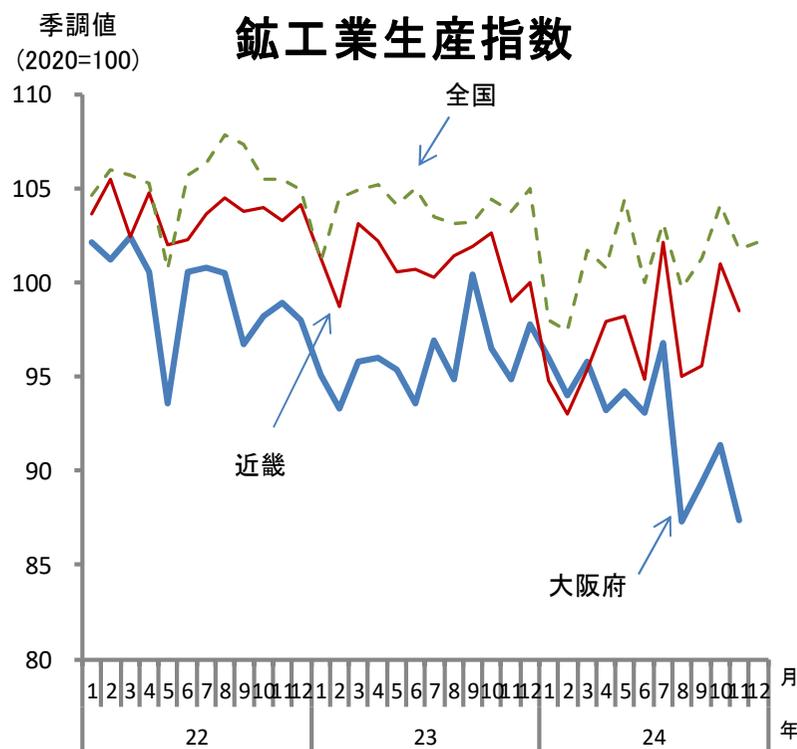


(出所) 観光庁

※従業員数10人以上の施設

# 供給面の動き：生産(1)

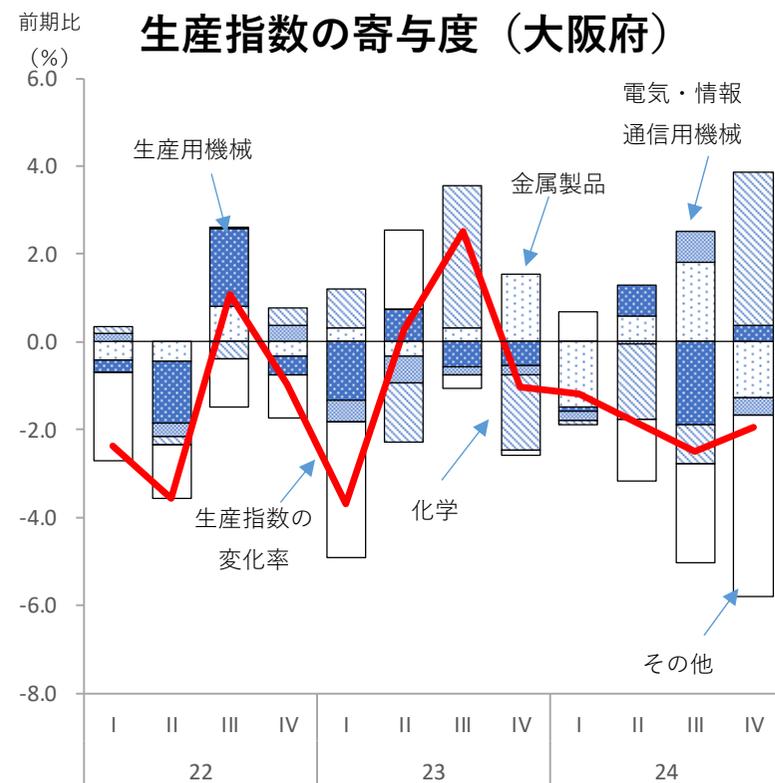
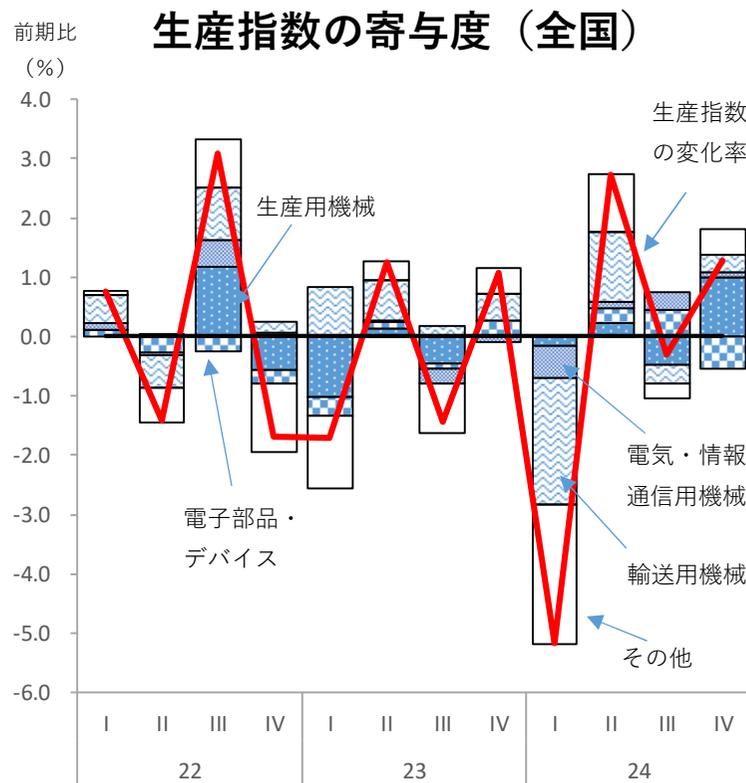
- ・生産指数では、  
大阪府(11月)は2ヶ月ぶりの低下、全国(12月)は2ヶ月ぶりの上昇。
- ・在庫指数では、  
大阪府(11月)は2ヶ月連続の上昇、全国(12月)は2ヶ月連続の低下。



(出所) 経済産業省、近畿経済産業局、大阪府統計課

# 供給面の動き：生産(2)

- 生産の足元の動きでは、  
全国では、「自動車」「生産用機械」などの動向が影響。  
大阪府では、「化学」「金属製品」などの動向が影響。

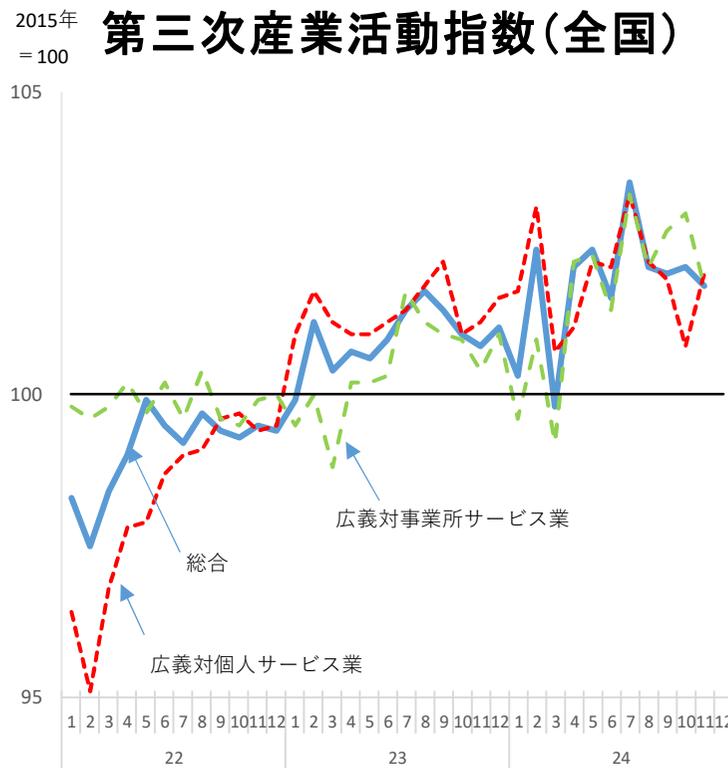


(出所) 経済産業省、大阪府統計課

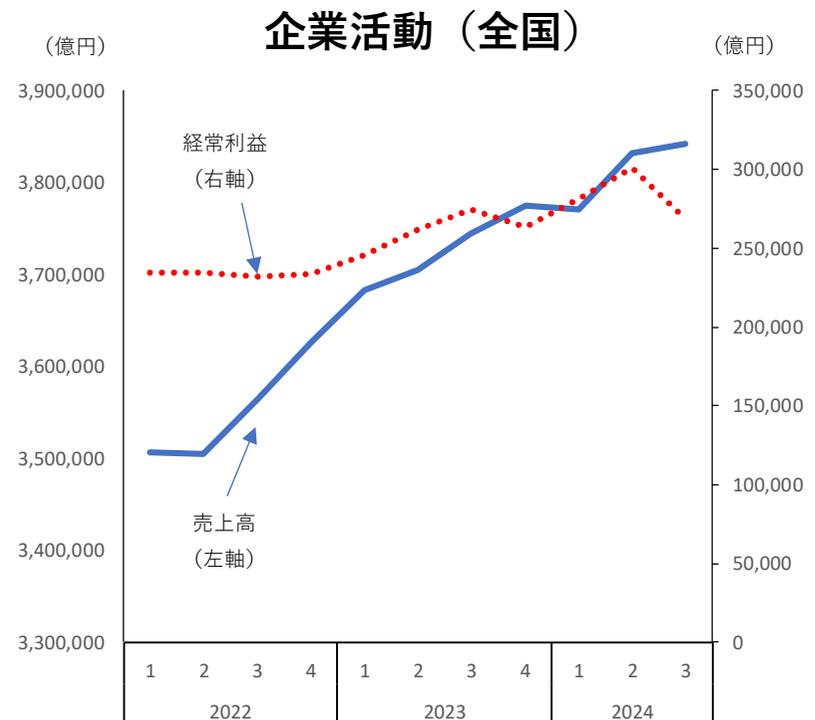
※24年第四期については、全国は速報値、大阪府は10月・11月平均より算出

# 需要面の動き：生産（3）

- ・第三次産業の動き（全国）では、23年に引き続き、24年も上昇傾向が続く。
- ・企業活動では、売上高・経常利益ともに上昇基調。



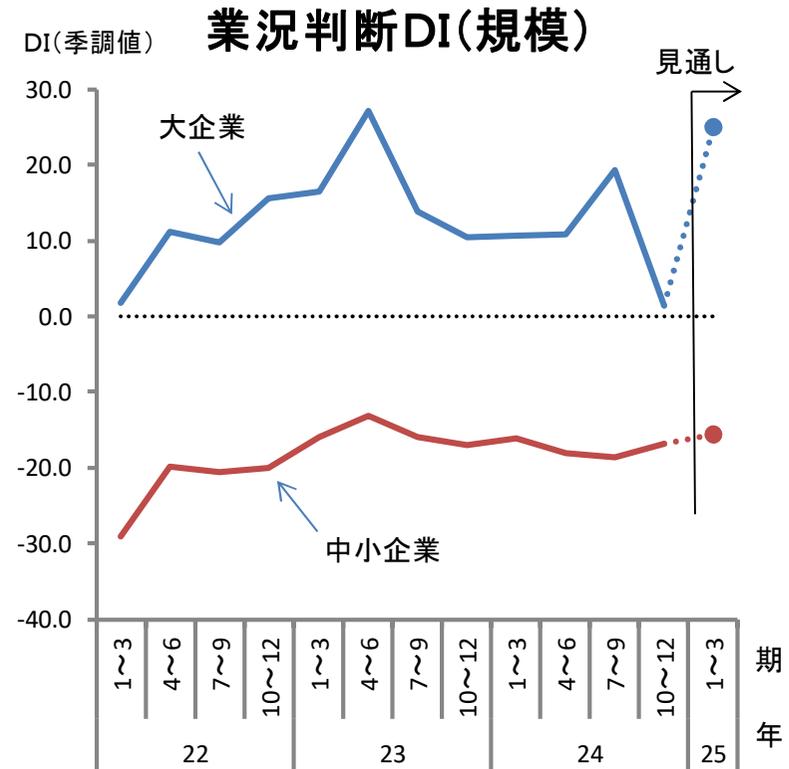
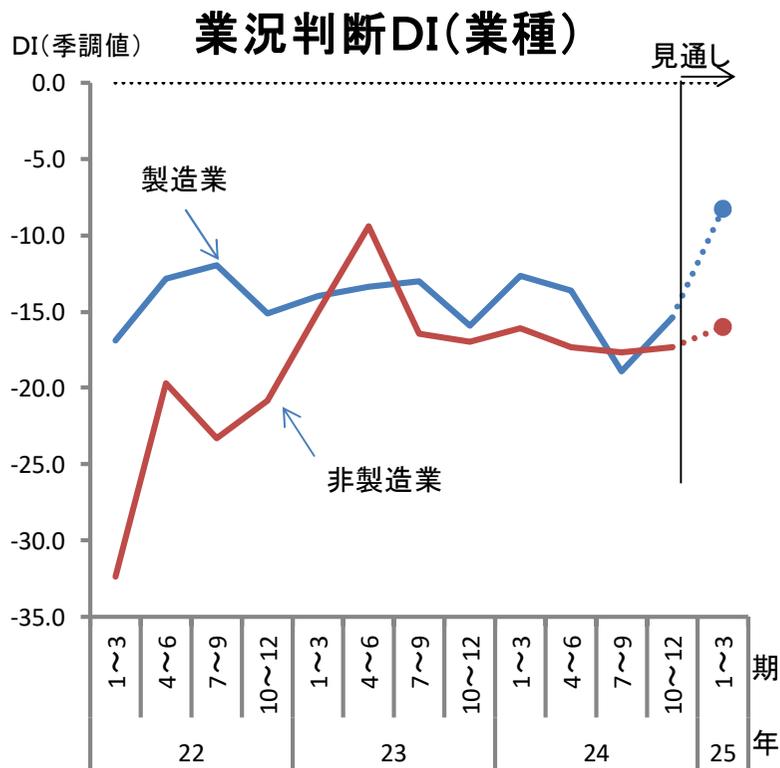
（出所）経済産業省  
※季節調整値。



（出所）財務省  
※全規模・全産業、季節調整値

# 供給面の動き：大阪府景気観測調査(1)

- 業況判断DIでは、24年10～12月期は、製造業、非製造業ともに3期ぶりの改善。
- 見通しでは、製造業、非製造業はともに改善見込み。



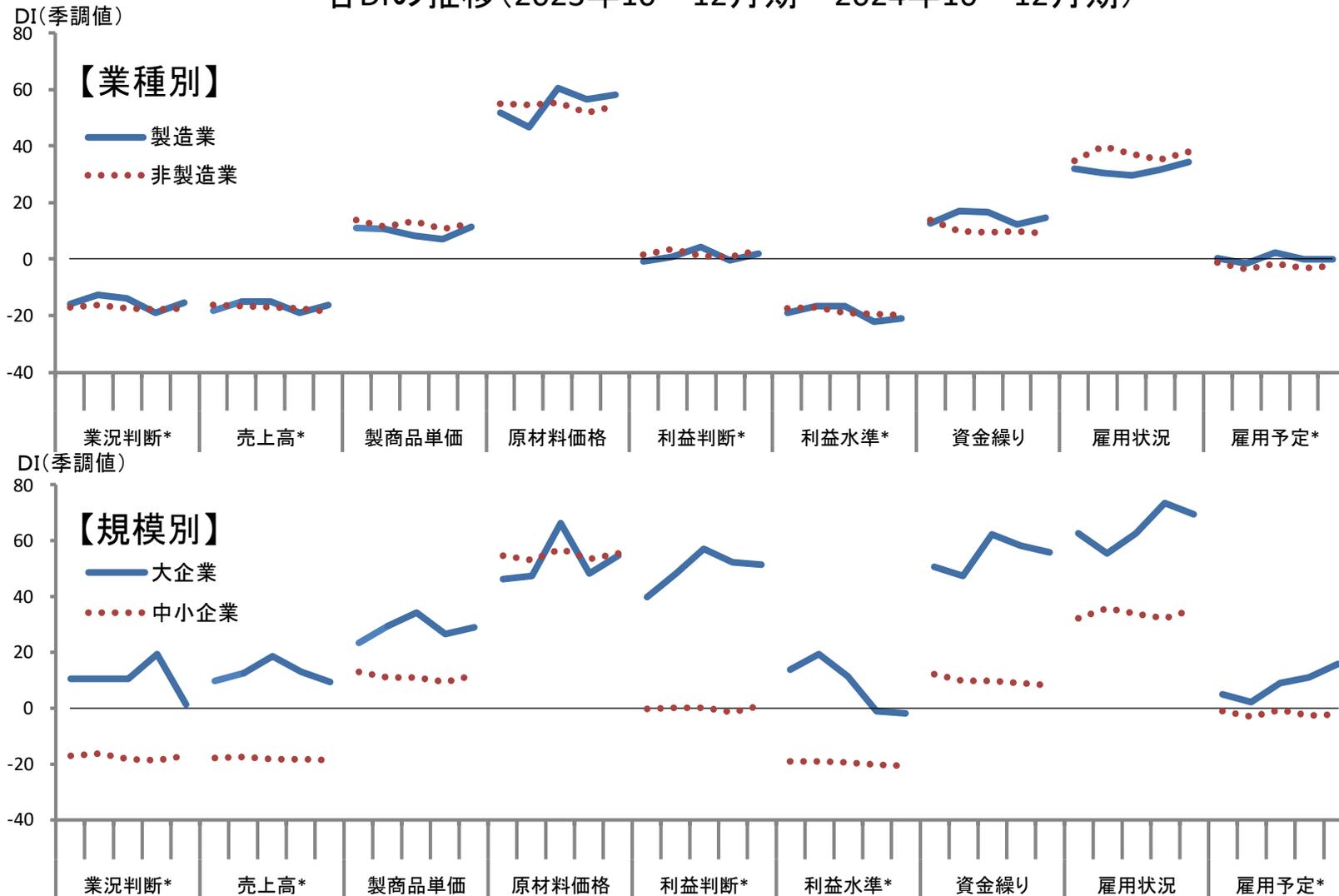
(出所)大阪産業経済リサーチセンター ※季節調整値

※ DI(Diffusion Index)とは、「上昇または増加等と回答した企業割合(%)」から「低下または減少等と回答した企業割合(%)」を差し引いたもの。  
DIが上昇することは、「上昇または増加等と回答した企業割合が増えた」ことを意味する。

※【調査方法: 24年10～12月期】大阪府内の民営事業所を対象に24年11月下旬～12月中旬に実施。回答企業数2,014社。

# 供給面の動き：大阪府景気観測調査(2)

各DIの推移(2023年10～12月期－2024年10～12月期)

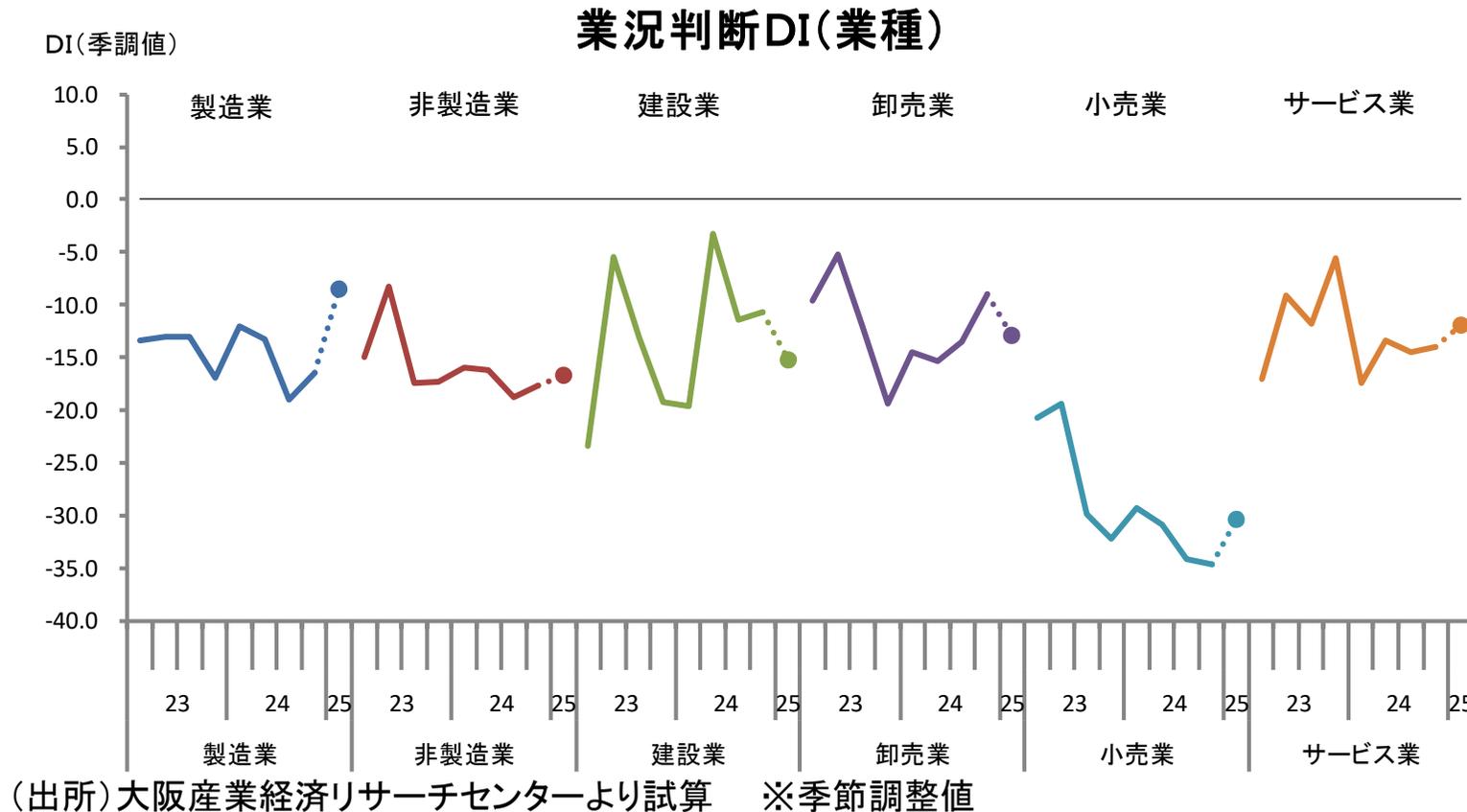


※ 「利益判断」=(黒字)-(赤字)、「利益水準」=(利益増加)-(利益減少)、「雇用状況」=「雇用不足」-「雇用過剰」

(出所)大阪産業経済リサーチセンター ※\*は季節調整値、残りは原数値

# 供給面の動き：大阪府景気観測調査(3)

- 業種別の業況判断DIでは、全体では横ばい傾向だが、業種によって状況はまちまち。

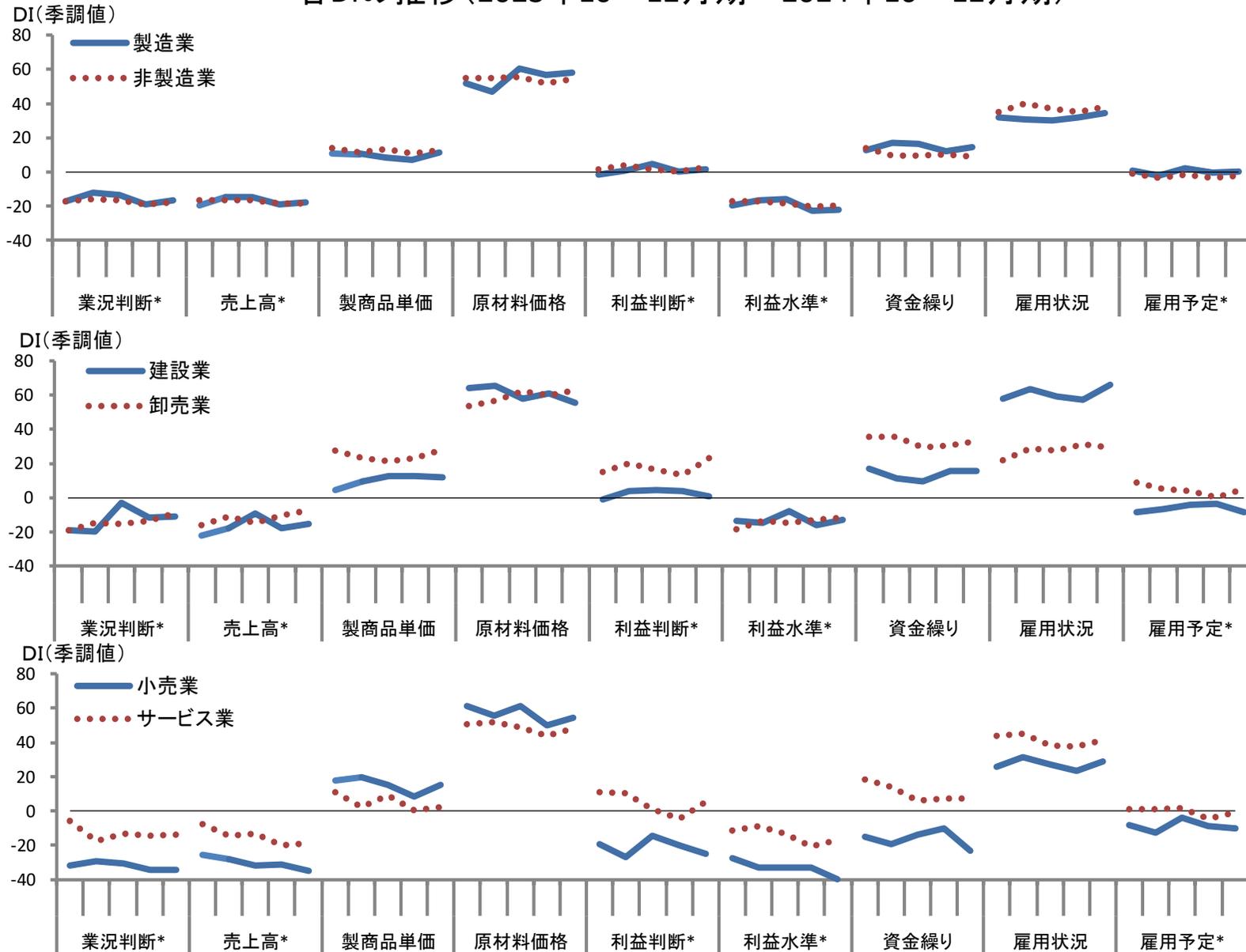


<アンケート回答企業における業種特性>

建設業： 小規模性が強い	小売業： 半分以上が4人以下と零細性が強い
卸売業： 比較的中堅企業が多く存在	サービス業： 小規模性は強いものの、中堅企業も存在

# 供給面の動き：大阪府景気観測調査(4)

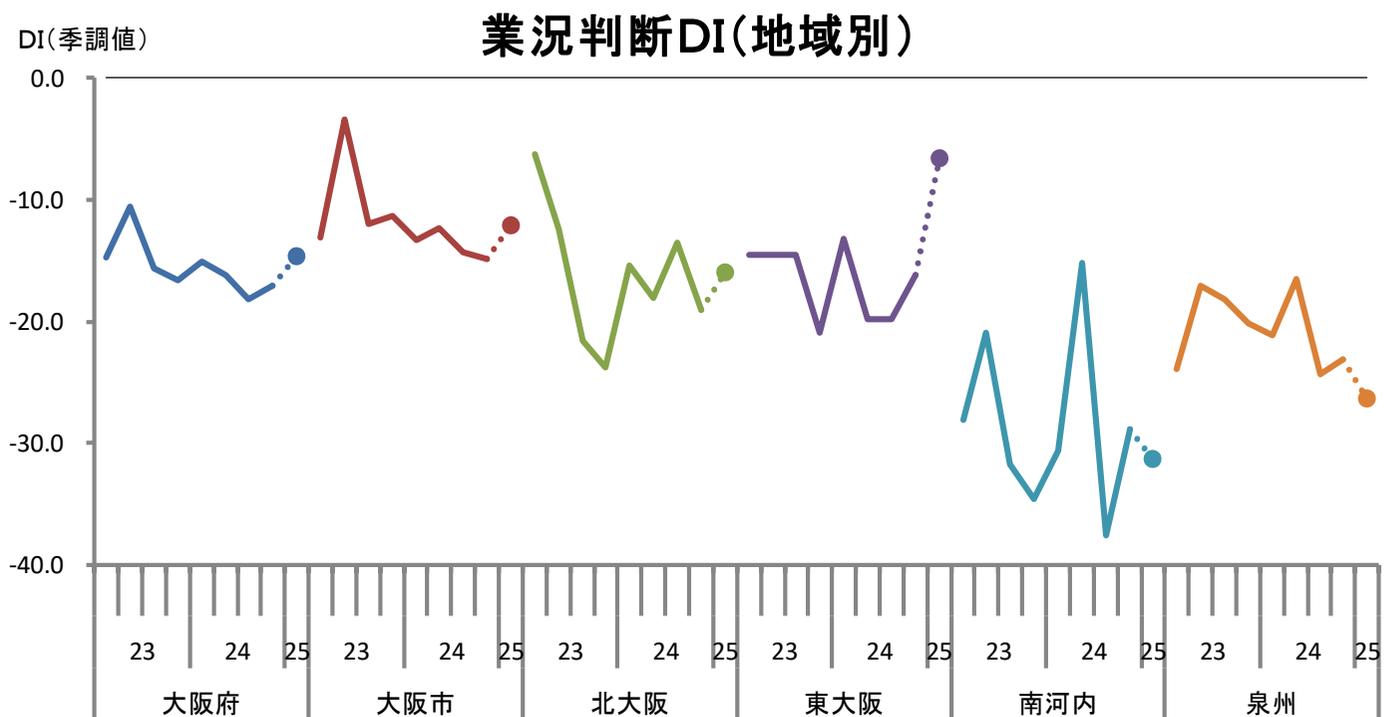
各DIの推移(2023年10~12月期-2024年10~12月期)



(出所)大阪産業経済リサーチセンターより試算

※\*は季節調整値、残りは原数値

# 【参考】府内地域別の景気動向(1)



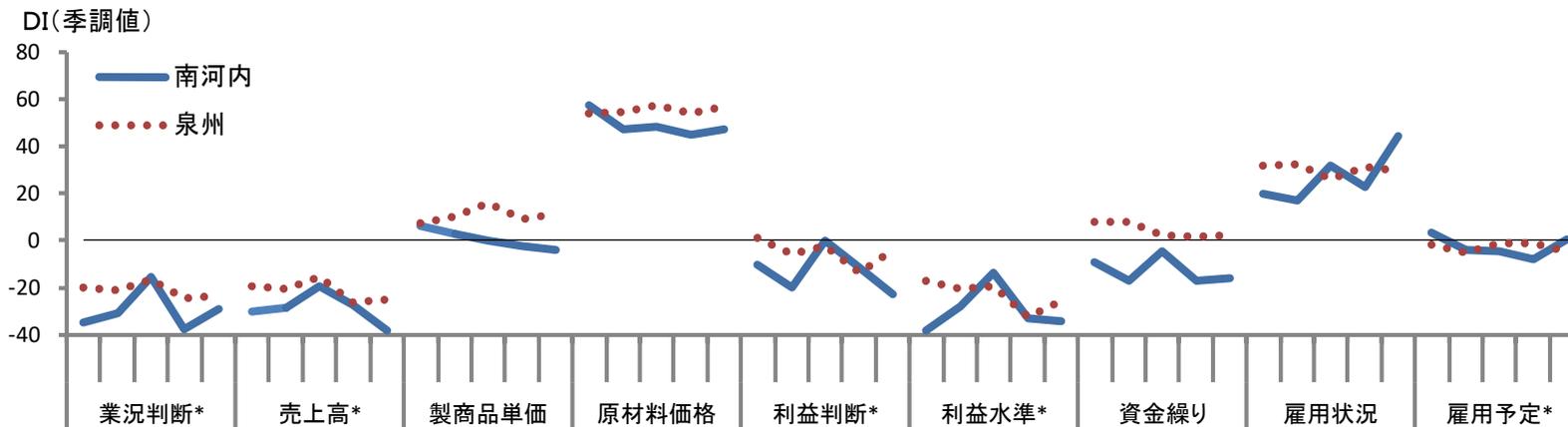
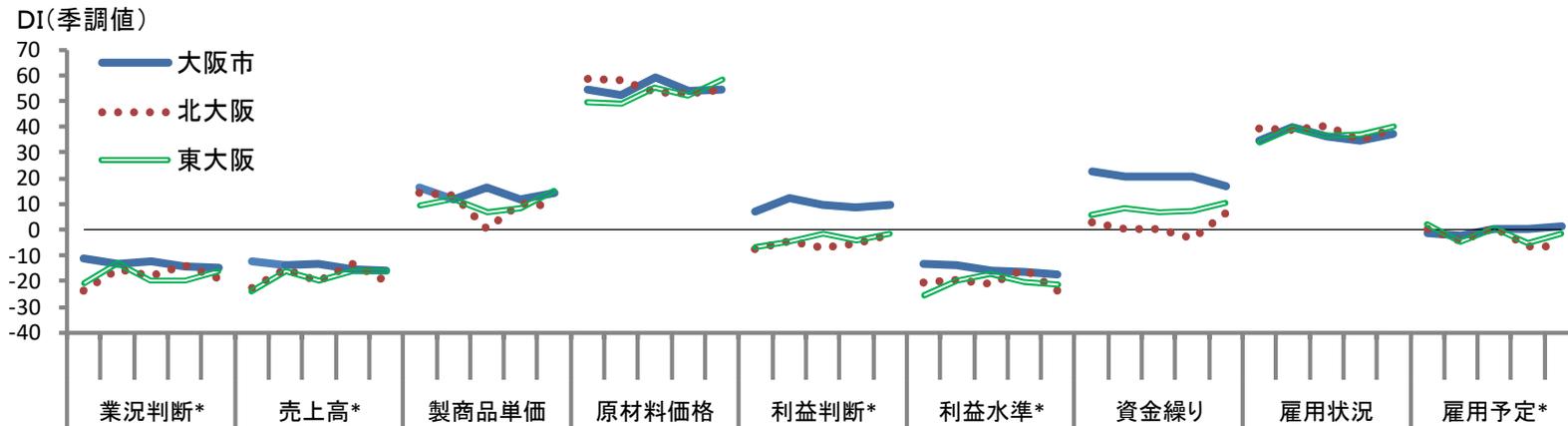
(出所)大阪産業経済リサーチセンターより試算

<アンケート回答企業における地域特性>

大阪市	非製造業比率、大企業比率が高い。
北大阪	非製造業比率が比較的高い。
東大阪	製造業比率が高い。
南河内	サンプル数が少ないため、大きく変動することがある。
泉州	若干製造業比率が高いものの、産業の偏りは少ない。

# 【参考】府内地域別の景気動向(2)

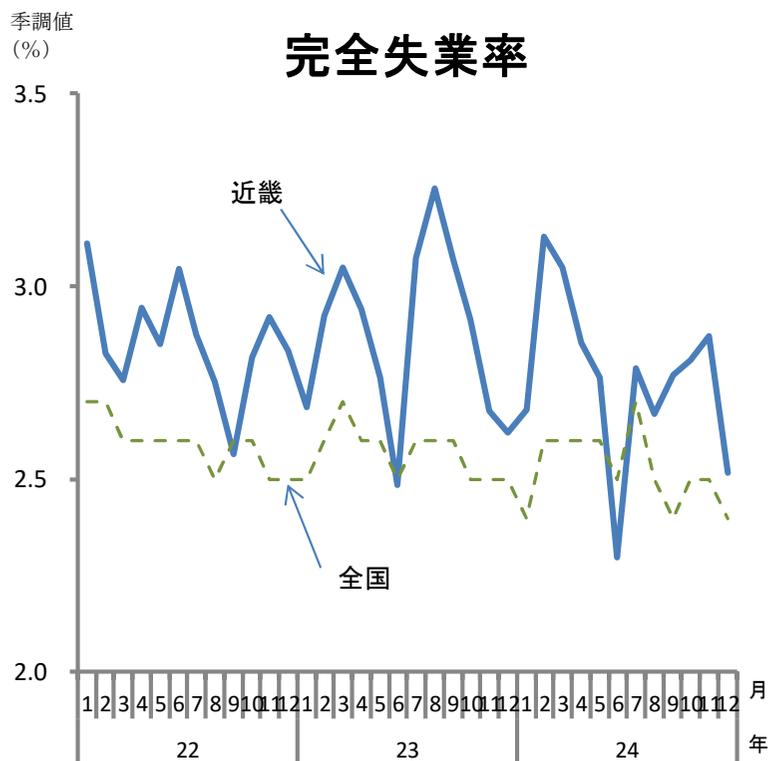
各DIの推移(2023年10~12月期—2024年10~12月期)



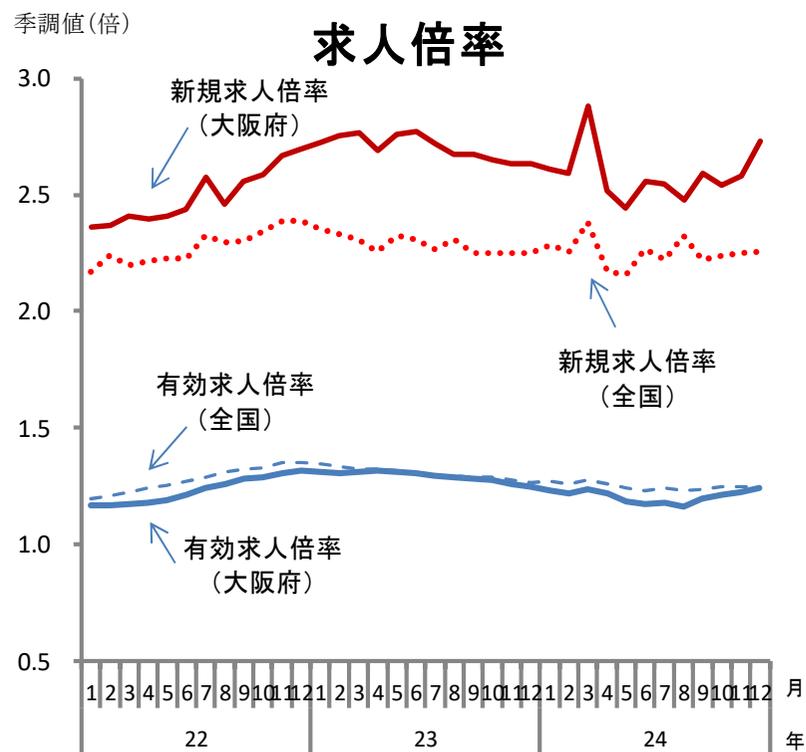
(出所)大阪産業経済リサーチセンターより試算 ※\*は季節調整値、残りは原数値

# 供給面の動き：雇用（1）

- ・完全失業率は、  
全国・近畿ともに変動しているものの、概ね低水準で推移。
- ・求人倍率は、全国・大阪府ともに、24年中盤に一服感みられたが、  
足元では上昇か。



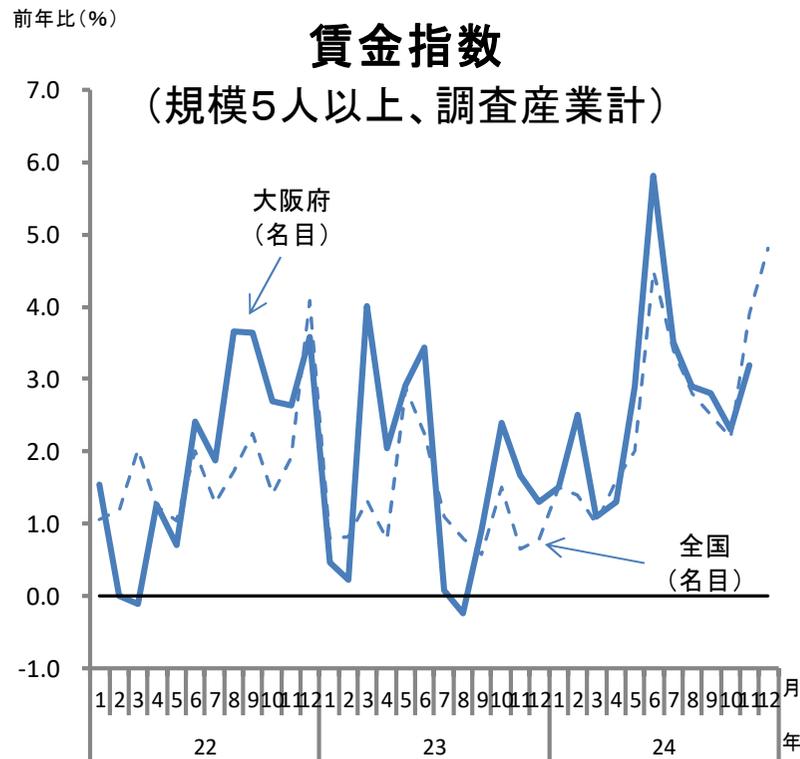
(出所)総務省統計局、季節調整値  
※近畿の季節調整値は試算値



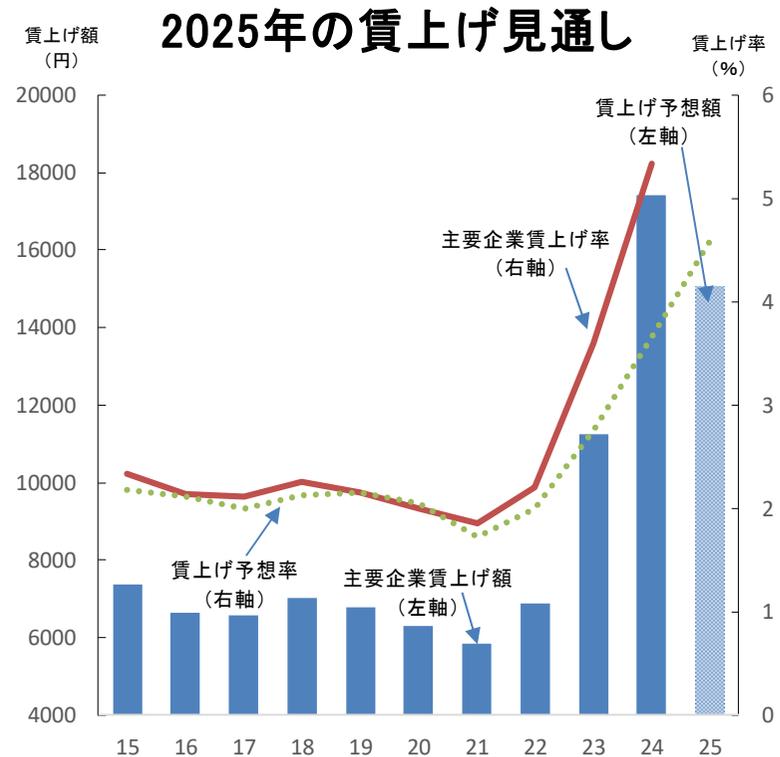
(出所)厚生労働省

# 供給面の動き：雇用(2)

- ・賃金動向では、上昇傾向が続くとともに、足元では上昇幅は拡大。ただし、物価の高騰もあり、実質では弱い動きが続く。
- ・賃上げ見通しでは、昨年度に引き続き、今年度も高い賃上げ見通し。



(出所)厚生労働省、大阪府統計課



(出所)一般財団法人 労務行政研究所

※東証プライム上場クラスの賃上げ見通し。主要企業賃上げ額・率は厚生労働省調べ、予想額・率は、労使の当事者および労働経済分野の専門家へのアンケート調査による

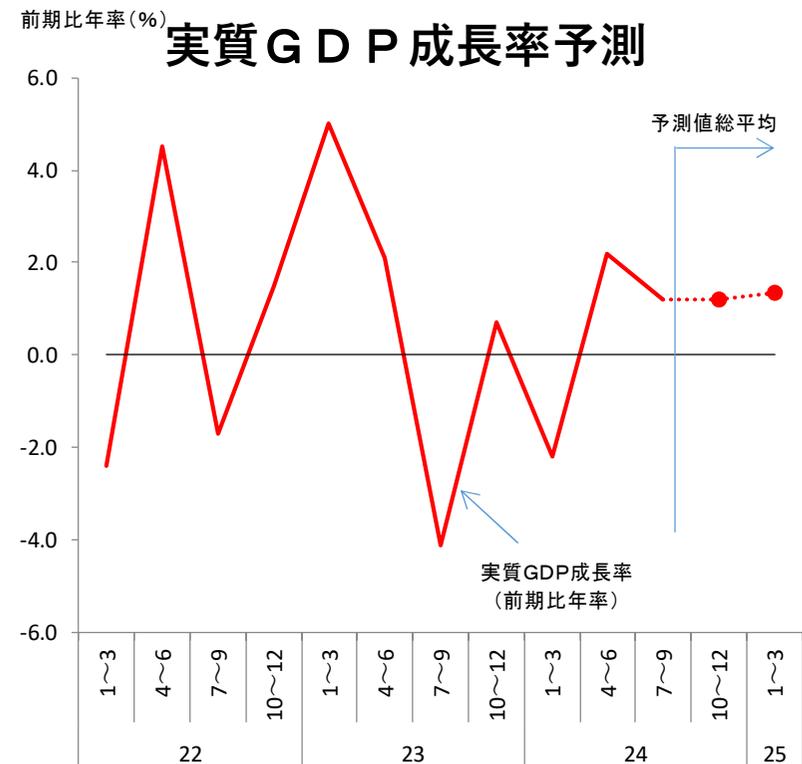
# 今後の見通し

- ・世界経済の見通しでは、24年・25年・26年と、世界全体では同程度の成長が続くと予想。
- ・日本の見通しでは、25年度はプラス成長を見込むものの、成長率は鈍化。

世界経済の見通し(単位:%)

	24年	25年	26年
世界全体	3.2	3.3(0.1)	3.3(0.0)
先進国	1.7	1.9(0.1)	1.8(0.0)
アメリカ	2.8	2.7(0.5)	2.1(0.1)
ユーロ圏	0.8	1.0(-0.2)	1.4(-0.1)
日本	-0.2	1.1(0.0)	0.8(0.0)
新興・途上国	4.2	4.2(0.0)	4.3(0.1)
中国	4.8	4.6(0.1)	4.5(0.4)
インド	6.5	6.5(0.0)	6.5(0.0)

(出所)IMF, 2025年1月時点  
( )内は前回時点(2024年10月)からの改訂幅



(出所)内閣府、日本経済研究センター

## まとめ

- ・最近の経済動向のまとめでは、コロナ禍からの回復は23年で一段落し、24年は年間を通じて横ばい傾向が続いた。
- ・その中身を見ると、「生産」「輸出」が弱い動き、インバウンドも含めて「消費」は堅調。  
24年は、物価上昇だけでなく、賃金上昇もみられた。  
→経済指標とマインドが一致しない要因か？
- ・今後の見通しでは、世界経済は、これまでと同程度の成長を予想しているが、不確実性が強い。
- ・日本経済では、25年は成長率が鈍化するという予想。
- ・「人手不足感」と「賃上げ」...それほど話は単純ではない
- ・賃金の上昇が今後も続くか、それが消費に結びつくか？